



# 石上さんのピーマン



人参、里芋、ごぼう、落花生など多数の作物を育てながら出荷もしているので忙しい日々です



毎日、虫捕りや手入れなどの手間がかかります



支柱と紐で支えているピーマン。これからぐんぐん大きく育ち、秋には2mぐらになります

## ★毎日、手間をかけて育てています

トウモロコシ、トマトなどと並んで代表的な夏野菜、石上さんのピーマンの出荷が本格的に始まりました。ピーマンは苦くて子供が嫌いというイメージを持つ人もいますが、石上さんのピーマンはジューシーで甘みや旨味があり、「美味しいから好き！」と言ってパクパク食べる子供がいるほど。特に今の時期のピーマンは出始めなので実も柔らかく、サラダはもちろん、さっと湯がいておなか醤油で食べたり丸焼きにして食べても美味しいのです。

石上さんは美味しいピーマンになるよう、発酵鶏糞、有機配合肥料、糠などで土作りを行い、さらに追肥にも糠を使います。

「糠は味が良くなるよね」

しかし美味しいピーマンは、実は虫も大好き。これから暑くなってくると蛾の幼虫が出てきます。そのため、朝と収穫時の1日2回、800本あるピーマンの木を見回り虫を見つけたら手で捕っているのです。

「毎朝ハウスの中を歩いて手で捕るんだよ。収穫時も捕るから1日2回捕っているけどまあ捕りきれないよね」

さらに、アブラムシにはデンブンのりを定期的に散布し、また、病気対策には納豆菌を葉面散布したり、風通しや日当たりを良くするために枝や葉っぱを剪定したり。収穫だけでなく毎日手間をかけながらお世話をしています。「毎年やっていることだからね。まあいつもと変わらないよ」と言いながら、ピーマンが元気に美味しく育つよう、今日も暑いビニールハウスの中で汗を流しながら頑張っています。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

## 【産地情報】

◎トマト、西ユタカの出荷開始です。